



# 交通安全の価値を考える



小林 眞

愛知県春日井警察署長等を歴任し、平成28年より「AAKK」専務理事。  
「安全運転を習慣とすること、そのための努力を惜しまないこと」を提案している。

第32回

## 教えるという学び

フランス詩人（ルイ・アラゴン）は、「教えることは夢を語ることであり、学ぶことは誠実さを胸に刻むことである」と表現しています。

安全運転管理者は従業員に安全運転教育をすることになりますが、その語るべき夢とは何でしょうか。また、胸に刻むべき誠実さとは何を意味するのでしょうか。

語るべき夢とは交通事故を起こさないことに尽きますが、会社に迷惑をかけるから事故を起こすなどといった教える方は、交通事故を防ぐことの価値そのものを矮小化しており、それを夢とはいえません。

管理者が語るべき夢とは、交通安全の価値のことだと思っています。それは、事故当事者にならないことの大切さであり、平穏であることによってこそ得られる自由と笑顔を絶やさずに生きていることの価値のことです。

そして、その夢を語る管理者の言葉は、自分自身の言葉でなければなりません。管理者の方々が、自分の部下職員を守ろうとする気持ちを抱き、考え続けることによって自分自身の言葉が

生まれてきますが、そうして生まれた自分自身の言葉で伝えることこそが夢の実現をもたらすからです。

また、「学ぶこととは、誠実さを胸に刻むことである」という言葉にある誠実さとは何でしょうか。それは、教えてくれる人、その人の誠実さのことであるように思われます。

事故をするなど一方的に指示するのはなく、交通事故から従業員を守ろうと考えること、そのために必要なことを本気になって考え続けるという、人としての誠実さこそが学ぶ者に伝える力を与えるのだと思っています。

安全運転管理者の役割、その教えることとは、安全運転の意識を浸透させ、実践させ、継続させていくこと、つまり、安全運転を職場の習慣とすることであり、何よりもそのための努力を惜しまないことです。

そして学ぶこととは、管理者の指導、その言葉に秘められた思いを受け止めること、その人の誠実さを受け止めて安全運転の価値を共有することだと私は理解しています。

新刊

弊誌でも人気の当コラムが小冊子になりました。

交通事故をなくすため、安全運転の習慣化を図るためのヒントが、ここにあります。

現代を生きるドライバーに求められているのは、  
これまで以上の安全意識である！

小林 眞 著 交通安全の価値を考える

商品 No: 6819 B5判・24頁・表紙カラー・本文2色刷 本体価格198円(送料別)

●お申込みは、ホームページまたは40頁の申込書をご利用ください。

交通安全の  
価値を考える

小林 眞

